

校異源氏物語・野わき

中宮の御まへに秋の花をうへさせ給へることつねの年よりもみどころおほくいろくさをつくしてよしあるくろきあかきのませおゆひませつゝおなしき花のえたさしすかたあさゆふ露のひかりもよのつねならす玉かとかゝやきてつくりわたせるのへの色をみるにはた春の山もわすられてすゝしうおもしろく心もあかるゝやうなり春秋のあらそひにむかしより秋に心よする人はかすまさりけるをなたゝる春のおまへのはなそのに心よせし人ゝ又ひきかへしうつろふけしき世のありさまにゝたりこれを御らむしつきてさとゐしたまふほど御あそひなどもあらまほしけれと八月はこせむはうの御き月なれは心もとなくおほしつゝあけるゝに此花のいろまさるけしきともを御らむするにのわきれいのとしよりもおとろくしく空の色かはりてふきいつはなとものしほるゝをいとさしも思しまぬ人たにあなわりなどおもひさはかるゝをまして草むらの露の玉のをみたるゝまゝに御心まとひもしぬへくおほしたりおほふはかりのそては秋の空にしもこそほしけなりけれくれゆくまゝにものもみえすふきまよはしていとむくつけゝれはみかうしなとまいりぬるにうしろめたくいみしとはなのうへをおほしなけくみなみのおとゝにもせむさいつくろはせ給ひけるおりにしもかくふきいてゝもとあらのはきはしたなくまちえたる風のけしきなりおれかへり露もとまるましくふきちらすをすこしはしちかくてみたまふおとゝはひめ君の御かたにおはします程に中将の君まいり給ひてひむかしのわたとのゝこさうしのかみよりつまとのあきたるひまをなに心もなくみいれ給へるに女房のあまたみゆれはたちとまりてをともせてみる御屏風もかせのいたくふきければをしたゝみよせたるにみとをしあらはなるひさしのおましにゐ給へる人ものにまきるへくもあらずけたかくきよらにさとにほふ心ちして春のあけほのゝかすみのまよりおもしろきかはさくらさきみたれたるをみる心ちすあちきなくみたてまつるわかかほにもうつりくるやうにあい行はにほひちりてまたなくめつらしき人の御さまなりみすのふきあけらるゝをひとくをさへていかにしたるにかあらむうちわらひたまへるいといみしくみゆはなともを心くるしかりてえみすてゝいり給はず御まへなる人ゝもさまくゝにものきよけなるすかたともはみわたさるれ

とめうつるへくもあらずおとゝのいとけとをくはるかにもてなし給へるはかく
みる人たゝにはえ思ふましき御ありさまをいたりふかき御心にてもしかゝるこ
ともやおほすなりけりと思ふにけはひおそろしうてたちさるにそにしの御方
よりうちのみさうしひきあけてわたり給ふいとうたてあはたゝしきかせなめり
みかうしおろしてよをのこともあるらむをあらはにもこそあれときこえ給ふを
またよりてみればものきこえておとゝもほゝゑみてみたてまつり給ふおやとも
おほえすわかくきよけになまめきていみしき御かたちのさかりなりをんなもね
ひとゝのひあかぬことなき御さまともなるをみにしむはかりおほゆれとこのわ
た殿のかうしもふきはなちてたてるところのあらはになれはおそろしうてたち
のきぬいまゝいれるやうにうちこはつくりてすのこの方にあゆみいて給へれば
されはよあらはなりつらむとてかのつまとのあきたりけるよといまそみとかめ
たまふとしころかゝることのつゆなかりつるをかせこそけにいほもふきあけ
つへきものなりければかりの御心ともをさはかしてめつらしくうれしきめを
みつるかなとおほゆ人ゝまいりていとかめしうふきぬへきかせにはへりう
しとらのかたよりふき侍れはこの御まへはのとけきなりむまはのおとゝみなみ
のつりとのなどはあやうけになむとてとかくことをこなひのゝしる中將はいつ
こよりものしつるそ三条の宮に侍つるをかせいたくふきぬへしと人々の申つれ
はおほづかなさにまいり侍つるかしこにはまして心ほそくかせのをとをもいま
はかへりてわかきこのやうにをち給めれば心くるしさにまかて侍なむと申給へ
はけにはやまうて給ひねおいもていきて又わかうなることよにあるましき事な
れとけにさのみこそあれなとあはれかりきこえ給てかくさはかしけにはへめる
をこのあそむさふらへはと思たまへゆつりてなむと御せうそきこえ給ふみち
すからいりもみする風なれとうるはしくものし給ふ君にて三条の宮と六条院と
にまいりて御らむせられ給はぬ日なしうちの御ものいみなとにえさらすこもり
給へき日よりほかはいそかしきおほやけことせちゑなどのいとまいるへくこと
しけきにあはせてもまつこの院にまいり宮よりそいて給ひければましてけふか
ゝる空のけしきによりかせのさきにあくかれありき給ふもあはれにみゆ宮いと
うれしうたのもしとまちうけ給てこゝらのよはひにまたかくさはかしき野わき
にこそあはさりつれとたゝわなゝきにわなゝき給おほきなる木のえたなどのを
るゝをともしとうたてありおとゝのかはらさへのこるましくふきちらすにかく
てもものし給へる事とかつはのたまふそこらところせかりし御いきをひのしつま
りてこの君をたのもし人におほしたるつねなきよなりいまもおほかたのおほえ

のうすらきたまふことはなけれとうちのおほとん、御けはひはなか／＼すこし
うとくそありける中将よもすからあらき風のをとにもすゝろにもあはれなり
心にかけて恋しと思人の御事はさしをかれてありつる御おもかけのわすられぬ
をこはいかにおほゆる心そあるましき思ひもこそ、へいとおそろしきことゝみ
つからおもひまきはしこと／＼に思ひうつれとなをふとおほえつゝきしかた
ゆくすゑありかたくものし給ひけるかなかゝる御なからひにいかてひんかし
の御方さるものゝかすにてたちならひ給つらむたとしへなかりけりやあないと
をしとおほゆおとゝの御心はへをありかたしと思ひしり給人からのいとまめや
かなれはにけなさをおもひよらねとさやうならむ人をこそおなしくはみてあか
しくらさめかきりあらむいのちのほともいますこしはかならずのひなむかしと
おもひつゝけらるあか月かたにかせすこしゝめりてむらさめのやうにふりいつ
六条院にははなれたるやともたふれたりなと人々申かせのふきまふほとひろく
そこらたかき心ちする院に人々おはしますおとゝのあたりにこそしけゝれひん
かしのまちなとは人すくなにおほされつらむとおとろき給ひてまたほの／＼と
するにまいり給みちのほとよこさまあめいとひやゝにふきいる空のけしきもす
こきにあやしくあくかれたる心ちしてなに事をやまたわか心に思ひくはゝれる
よと思ひいつれはいとにけなき事なりけりあなもののくるおしとどさまかうさま
に思つゝひんかしの御方にまつまうてたまへれはをちこうしておはしけるにと
かくきこえなくさめて人めしてところ／＼つくろはすへきよしなといひをきて
みなみのおとゝにまいり給へれはまたみかうしもまいらすおはしますにあたれ
るかうらんにをしかりてみわたせは山の木ともゝふきなひかしてえたともお
ほくおれふしたり草むらはさらにもいはすひはたかはら所／＼のたてしとみす
いかいなどやうのものみたりかはし日のわつかにさしいてたるにうれへかほな
るにはの露きら／＼として空はいとすこきりわたれるにそこはかとなく涙の
おつるををしのこひかくしてうちしはふき給へれは中将のこはつくるにそあな
るよはまたふかゝらむはとておき給なりなに事にかあらんきこえ給ふこゑはせ
ておとゝうちわらひ給ていにしへたにしらせたてまつらすなりにしあか月のわ
かれよいまならひたまはむに心くるしからむとてとはかりかたらひきこえたま
ふけはひともいとをかし女の御いらへはきこえねとほの／＼かやうにきこえた
はふれ給事のはのおもむきにゆるひなき御なからひかなときゝゑたまへりみか
うしを御てつからひきあげ給へはけちかきかたはらいたさにたちのきてさふら
ひ給ふいかにそよへ宮はまちよろこひ給きやさしかはかなきことにつけても涙も

ろにものし給へはいとふひんにこそ侍れと申給へはわらひ給ていまいくはくも
おはせしまめやかにつかうまつりみえたてまつれ内のおとゝはこまかにしもあ
るまじうこそうれへ給しか人からあやしうはなやかにをゝしきかたによりてお
やなどの御けうをもちかめしきさまをはたてゝ人にもみおとろかさんの心あり
まことにしみてふかき所はなき人になむものせられけるさは心のくまおほく
いとかしこき人のすゑのよにあまるまでさえたくひなくうるさなから人として
かくなむなき事はかたかりけるなどの給ふいとおとろくしかりつるかせに中
宮にはかはかしき宮つかさなとさふらひつらむやとてこの君して御せうそきき
こえたまふよるのかせのをとはいかゝきこしめしつらむふきみたり侍しにおこ
りあひ侍ていとたえかたきたためらひはへるほとになむときこえたまふ中将おり
てなかのらうのとよりとをりてまいり給ふあさほらけのかたちいとめてたくお
かしけなりひんかしのたいのみなみのそはにたちて御前のかたをみやり給へは
みかうしまたふたまはかりあけてほのかなるあさほらけのほとにみすまきあけ
て人々あたりかうらんにをしかゝりつゝわかやかなるかきりあまたみゆうちと
けたるはいかゝあらむさやかならぬあけほのゝほといろくなるすかたはいつ
れともなくおかしはらはへおろさせ給てむしのこともに露かはせ給なりけりし
をんてしこゝきうすきあこめともにをむなへしのかさみなとやうの時にあひ
たるさまにて四五人つれてこゝかしこのくさむらによりていろくゝのこともを
もてさまよひなてしこなどのいとあはれけなるえたととりもてまいるきりの
まよひはいとえむにそみえける吹くるおひ風はしをにことくゝにゝほふ空もか
うのかほりもふれはひ給へる御けはひにやといと思ひやりめてたく心けさうせ
られてたちいてにくけれとしのひやかにうちをとなひてあゆみいて給へるに人
くけさやかにおとろきかほにはあらねとみなすへりいりぬ御まいりのほどなど
わらはなりしにいりたちなれ給へる女房などいときうとくはあらず御せうそ
こけいせさせ給てさい將の君ないしなとけはひすれはわたくし事もしのひやか
にかたらひ給これはたさいへとけたかくすみたるけはひありさまをみるにもさ
まゝにもの思ひいてらるみなみのおとゝにはみかうしまいりわたしてよへみ
すてかたかりしはなとものゆくゑもしらぬやうにてしほれふしたるをみたまひ
けり中将みはしにゐ給て御返きこえ給ふあらきかせをもふせかせ給ふへくやと
わかゝしく心ほそくおほえ侍をいまなむなくさみ侍ぬるときこえ給へればあ
やしくあえかにおはする宮なりをむなとちはものおそろしくおほしぬへかりつ
るよのさまなれはけにおろかなりともおほひつらむとてやかてまいり給ふ御な

をしなとたてまつるとてみすひきあけていらたまふにみしかき御木丁ひきよせ
てはつかにみゆる御そてくちはさにこそはあらめと思ふにむねつふくとなる
心ちするもうたてあれはほかさまにみやりつとの御かゝみなどみたまひてしの
ひて中将のあさけのすかたはきよけなりなたゝいまはきひはなるへきほどをか
たくなしからすみゆるも心のやみにやとてわか御かほはふりかたくよしとみ給
へかめりいいたう心けさうし給て宮にみえたてまつるはゝつかしうこそあれ
なにはかりあらはなるゆへくしきもみえ給はぬ人のおくゆかしく心つかひせ
られ給そかしいとおほとかにをんなしきものからけしきつきてそおはするやと
ていて給ふに中将なかめいりてとみにもおとろくましきけしきにてゐたまへる
を心とき人の御めにはいかゝみ給けむたちかへり女君にきのふ風のまきれに中
将はみたてまつりやしてけんかのとのあきたりしによとのたまへはおもてうち
あかみていかてかはさはあらむわたとのゝかたには人のをとせさりしものを
ときこえ給ふなをあやしひとりちてわたり給ひぬみすのうちにいり給ひぬ
れは中将わたとのゝとくちに人ゝのけはひするによりてものなといひたはふる
れとおもふことのすちくしなけかくてれいよりもしめりてゐたまへりこなた
よりやかてきたにとをりてあかしの御方をみやりたまへははかしくしきけいし
たつ人などもみえすなれたるしもつかひともそくさの中にましりてありくはら
はへなとおかしきあこめすかたうちとけて心とゝめとりわきうへ給ふりんたう
あさかほのはいましれるませもみなちりみたれたるをとかくひきいてたつぬる
なるへしものゝあはれにおほえけるまゝにしやうのことをかきまさくりつゝは
しちかうるたまへるに御さきをふこゑのしけれはうちとけなへはめるすかたに
こうちきひきおとしてけちめみせたるいいたしはしのかたにつゐたまひて
かせのさはきはかりをとふらひ給ひてつれなくなちかへり給心やましけなり
おほかたにおきのはすくる風のをともうき身ひとつにしむ心ちしてひと
りこちけりにしのたいにはおそろしと思ひあかし給ひけるなこりにねすくして
いまそかゝみなどもみたまひけることくしききなをひそとの給へはことに
をとせていり給ふひやうふなともみなたゝみよせものしとけなくしなしたるに
日のはなやかにさしいてたるほとけさくともものきよけなるさましてゐたまへ
りちかくる給ひてれいの風につけてもおなしすちにむつかしうきこえたはふれ
給へはたえすうたてと思ひてかう心うければこそよひの風にもあくかれなま
ほしく侍つれとむつかり給へはいとよくうちわらひ給ひて風につきてあくかれ
たまはむやかるくしからむさりとともとまるかたありなむかしやうくかゝる

御心むけこそそひにけれことはりやとのたまへはけにうち思ひのまゝにきこえてけるかなとおほしてみつからもうちゑみ給へいとおかしきいろあひつらつきなりほをつきなといふめるやうにふくらかにてかみのかゝれるひまゝうつくしうおほゆまみのあまりわらゝかなるそいとしもしたかくみえさりけるそのほかはつゆなむつくへうもあらず中將いとこまやかにきこえ給をいかてこの御かたちみてしかなと思ひわたる心にてすみのまのみすのき丁はそひなからしとけなきをやをらひきあけてみるにまきるゝものともゝとりやりたれはいとよくみゆかくたはふれ給けしきのしるきをあやしのわさやおやかときこえなからかくふところはなれすものちかゝへきほとかはとめとまりぬみやつけたまはむとおそろしけれとあやしきに心もおとろきて猶みれはゝしらかくれにすこしそはみ給へりつるをひきよせ給へるに御くしのなみよりてはらくとこほれかりたるほと女もいとむつかしくくるしと思ふたまへるけしきなからさすかにいとなこやかなるさましてよりかゝり給へるはことゝなれゝしきにこそあめれいてあなうたていかなることにかあらむおもひよらぬくまなくおはしける御心にてもとよりみなれおほしたて給はぬはかゝる御おもひそい給へるなめりむへなりけりやあなうとましと思ふ心もはつかし女の御さまけにはらからといふともすこしたちのきてことはらそかしなと思はむはなとか心あやまりもせさらむとおほゆきのふみし御けはひにはけおとりたれとみるにゑまるゝさまはたちもならひぬへくみゆるやえやまふきのさきみたれたるさかりに露のかゝれるゆふはへそふと思ひいてらるゝおりにあはぬよそへともなれとなをうちおほゆるやうよはなはかきりこそあれそゝけたるしへなともましかし人の御かたちのよきはたとへんかたなきものなりけりおまへに人もいてこすいとこまやかにうちさゝめきかたらひきこえ給ふにいかゝあらむまめたちてそたち給ふ女君ふきみたる風のけしきにをみなへしゝほれしぬへき心ちこそすれくはしくもきこえぬにうちすむし給ふをほのきくににくきものゝおかしければなをみはてまほしけれとちかゝりけりとみえたてまつらしとおもひてたちさりぬ御かへり

した露になひかましかはをみなへしあらきかせにはしほれさらしなよたけをみ給へかしなとひかみゝにやありけむきゝよくもあらずそひんかしの御かたへこれよりそわたり給ふけさのあさゝむなるうちとけわさにやものたちなとするねひこたちおまへにあまたしてほそひつめくものにわたひきかけてまさくるわか人ともありいときよらなるくちはのうすものいまやういろのになくうち

たるなどひきちらしたまへり中將のしたかさねか御前のつほせむさいのえんもとまりぬらむかしかくふきちらしてむにはなに事かせられむすさましかるへき秋なめりなどのたまひてなに、かあらむさまくなるもの、色どものいときよらなれはかやうなるかたはみなみのうへにもおとらすかしとおほす御なをし花文れうをこのころつみいたしたるはなしてはかなくそめいて給へるいとあらまほしきいろしたり中將にこそかやうにてはきせ給はめわかき人のにてめやすかめりなどやうのことをきこえ給ひてわたり給ぬむつかしき方くめぐり給ふ御ともにありきて中將はなま心やましか、まほしきふみなとひたけぬるを思ひつゝ、ひめ君の御かたにまいり給へりまたあなたになむおはします風にをちさせ給ひてけさはえおきあかり給はさりつると御めのとそきこゆるものさはかしけなりしかはとのゐもつかうまつらむとおもひ給へしを宮のいとも心くるしうおほいたりしかはなむひるなのとはいか、おはすらむと、ひ給へは人々わらひてあふきの風たにまいれはいみじきことにおほいたるをほとくしくこそふきみたり侍しかこの御とのあつかひにわひにて侍なとかたることくしからぬかみやはへる御つほねのすゝりとこひ給へはみつしによりてかみひとまき御すゝりのふたにとりをろしてたてまつれはいなこれはかたはらいたしとの給へときたのおと、のおほえをおもふにすこしなめなる心ちしてふみかき給ふむらさきのうすやうなりけりすみ心とめてをしすりふてのさきうちみつゝこまやかにかきやすらひ給へるいとよしされとあやしくさたまりてにくきくちつきこそもののしたまへ

風さはきむら雲まかふ夕にもわするゝまなくわすられぬ君ふきみたれたる

かるかやにつけたまへればひとくかたの、少將はかみのいろにこそと、のへ侍りけれときこゆさはかりの色も思ひわかさりけりやいつこの、へのほとりの花なとかやうの人々にもことすくなにみえて心とくへくもゝてなさすいとすくくしうけたかしまたもかいたまうてむまのすけに給へれはおかしきわらはまたいとなれたる御すいしんなどにうちさゝめきてとらするをわかき人々たゝならすゆかしかるわたらせ給ふとて人々うちそよめきき丁ひきなをしなとすみつるはなのかほとも、おもひくらへまほしうてれいはものゆかしからぬ心ちにあなちにつまとのみすをひきゝてき丁のほころひよりみれはものゝそはよりたゝはひわたり給ふほとそふとうちみえたる人のしけくまかへはなにのあやめもみえぬほとにいと心もとなしうすいろの御そにかみのまたゝけにはゝつれたるすゑのひきひろけたるやうにていとほそくちいさきやうたいらうたけに心くる

しをと、しはかりはたまさかにもほのみたてまつりしにまたこよなくおひまさ
り給ふなめりかしましてさかりいかならむとおもふかのみつるさき／＼のさく
らやまふきといは、これはふちのはなとやいふへからむこたかき木よりさきか
ゝりて風になひきたるにほひはかくそあるかしと思ひよそへらるかゝる人々を
心にまかせてあけくれみたてまつらはやさもありぬへきほとながらへたて／＼
のけさやかなるこそつられなと思ふにまめ心もなまあくかるゝ心ちすをは宮
の御もとにもまいり給へはのとやかにて御をこなひし給ふよろしきわか人な
とこゝにもさふらへともてなしけはひさうそくともゝさかりなるあたりにはに
るへくもあらずかたちよきあま君たちのすみそめにやつれたるそなか／＼かゝ
る所につけてはさるかたにてあはれなりける内のおとゝもまいり給へるに御と
なあふらなとまいりてのとやかに御物かたりなときこえ給ふひめ君をひさしく
みたてまつらぬかあさましきことゝてたゝなきになき給ふいまこのころのほと
にまいらせむ心つからものおもはしけにてくちをしうをとろへにてなむはへめ
る女こそよくいはゝもち侍ましきものなりけれとあるにつけても心のみなむつ
くされ侍けるなとなを心とけす思をきたるけしきしてのたまへは心うくてせち
にもきこえ給はすそのついでにもいとふてうなるむすめまうけ侍てもてわつら
ひ侍ぬとうれへきこえ給てわらひ給宮いてあやしむすめといふなはしてさかな
かるやうやあるとのたまへはそれなんみくるしきことになむはへるいかて御ら
むせさせむときこえ給とや